

# 桜の庄兵衛

information vol.54

春はニューヨークの風と共に

## 早間美紀 and friends ジャズライブ

本場ニューヨークで大活躍!!

話題のジャズピアニスト早間美紀さんが桜の庄兵衛に来てくださることになりました。早間美紀さんのスイングして弾けるようなピアノ、藤井美智さんの優しく響くトランペット、荒玉哲朗さんの包み込むようなベース。最新のニューヨークJAZZの旗手である彼女と関西を代表するJAZZミュージシャンおふたりとの競演をお楽しみください!!

2月7日(日)

昼の部 13:00開演(12:30開場)  
夕の部 16:30開演(16:00開場)

出演

ピアノ 早間美紀 Hayama Miki

トランペット 藤井美智 Hujii Miti

ベース 荒玉哲郎 Aratama Teturo

プログラム

スターダスト

マック・ザ・ナイフ

オーバー・ザ・レインボウ

他

早間 美紀

京都生まれ。NY在住。大阪音楽大学短期大学部ピアノ科卒。ジャズピアノを藤井貞泰氏に学ぶ。96年横浜プロムナードコンペティションに早間美紀トリオで優勝並びに洗足学園賞を受賞。その後NYへ単独渡米。2003年世界的サクソ奏者、ケニー・ギヤレット・バンドのピアニストとして、ジャズフェスティバルに出演。2004年にはArt Union @ Jazz Label よりデビューアルバム「ヴァイブラント」を発売。NYの一流ジャズクラブ「ジャズ・ギャラリー」に早間美紀クインテットで出演。2006年セカンドアルバム「プレリュード・トゥー・ア・キス」発売。2007年にはニューヨークのセントラルパークで開催された「第一回日本祭り」で音楽監督をつとめる。2009年1月、ワシントンDCにて第44代アメリカ大統領バラック・オバマ就任式パーティーに招かれ演奏。春にはサードアルバム「ワイド・アングル」を発売。アルバムはスイング・ジャーナル選定ゴールドディスク賞を獲得。上記アルバムが、2010年1月スイング・ジャーナル誌 ジャズディスク大賞制作企画賞受賞。  
<http://www.mikihayama.com/>

藤井 美智

堀川高等学校音楽科(現京都市立音楽高等学校)と東京芸術大学トランペット科に女性で初めて入学。大学在学中よりクラシックの分野で活動を始め「レディーズオーケストラ・イン・ジャパン」に最年少にして主席トランペット奏者に抜擢。1986年JAZZ LIFE誌主催「ウイントン・マルサリスコンテスト」グランプリ受賞。女性サルサバンドのメンバーとしてキューバ政府に招かれカーニバルや地元テレビ、ラジオに出演。その後バークリー音楽院の全額免除奨学生として渡米。帰国後は、カルテットで横濱JAZZ PROMENADE'98においてグランプリ他2つの賞を独占受賞。2008年8月、ベガミュージックエンタテインメントから1stアルバム「WILL (ウィル)」を発売。現在は「甲陽音楽院」「ドルチェミュージックアカデミー」の講師を務めながら女性トランペット奏者の第一人者の存在として関西を中心に幅広く活躍している。

荒玉 哲郎

87年、竹下清志氏のグループに参加しミッキー・ロウカーやオテロ・モリノワらと共演し94年より単身渡米。帰国後は綾戸智絵をはじめ様々なレコーディングに参加、コンコードジャズフェスティバル大阪に出演するなど精力的な活動を展開。05年にはアルゼンチンを訪問し大統領官邸にて演奏会を行い好評を博す。08年にはドイツ総領事の招待によりデュッセルドルフ等4ヶ所で開催演奏会を行う。09年には初リーダーアルバム「REZA(ヘーザ)」を発表。現在はジャズのみならずブラジル音楽やアルゼンチン音楽のグループで活動する傍ら後進の育成にも力を注いでいる。  
<http://www.rocketz.co.jp/aratama/>

リュート? 名前を聞いたことは記憶にはある。けれど音を聴いたことはなく、ましてや実物を見たことなど全くない。

予備知識を得る為、私は音楽にホンの少しだけ詳しい知人を訪ねた。知人の言によるとベルシャからアラビヤを経由して中世ヨーロッパに伝わったマンドリンや日本の琵琶に似た多弦の古楽器で、宮廷や貴族の館で演奏されると言うことや、音量の小ささという特質から他のより大きい音量の楽器に押され衰退したが、近年その良さが見直され復活の動きが盛んであるといった、ごくごく基本的で最低限の知識だけを得て私はクラシック、又はそれに近い音楽が演奏されるのだらうと勝手に思い込み「桜の庄兵衛ギャラリー」へと向かった。

演奏が始まった。深川さんの抑えた調子の語り、しみいる様な高本さんのリュートの音色。歌が始まる。「むかしむかしシンデレラが」「花咲く日々」に「ん?フランス語?いや少し違う。一体どこの国の言葉なのか」疑問は2曲の演奏が終わった後の解説で解かれた。4~500年前のフランスの古語だとか。歌い手さんというのはそんなに古い外国語にまでこだわらなければいけないのか。驚きと共に尊敬の念を感じる。

演奏が再開される。この辺りまではかなり神経を集中しリュートの音色、詩の語りを聞いていた。次第にゆったりした気分になってくる。自分から音を聴きにいくのではなく音の方から自分に近付いてきて柔らかく身体を包んでくれる様な気がしてきた。丸く穏やかな歌声が耳に心地よい。静かなリュートの音色、素直に胸にひびく。曲がすすむ。胸にある様々の雑念、鬱憤が薄れていく気がする。一部が終わった。ふと我にかえる。もしかすると眠っていたのか?お二人のデュオ名「うたたね」その状態になっていたのか。



休憩、庭に出て煙草を一服。何か身体が軽く感じる。心が軽くなると身体まで軽くなるのだろうか。

二部が始まる。特別リクエストのユーミンの曲が演奏される。こんなニューミュージックを演奏するなんて。私の勝手な予断は完全に覆された。「踊り子」ハスキーがかった高音部の熱唱に圧倒される。日頃わらべ唄の採取と普及に力を入れておられるとか。どちらが彼女の本質的な持ち味なのか。どちらかがそうなのか。

終盤に差し掛かる。お客様に呼びかけての手拍子、合唱、会場が一体になった盛り上がり。大きなホールとは一味違った親近感のあるフィナーレだった。

終演後、高本さんにお話を伺う機会があった。「ヨーロッパでは演奏会場のホールにせよ教会にせよ反響面が大変よくできているので演奏もやり易い。その面では日本はまだ劣っています。しかし、ここ桜の庄兵衛さんは満足の出来る造りの建物です。」との事。

「桜の庄兵衛ギャラリー」の魅力とは何なのか? 考えてみた。

観客の至近距離で演じられる為、親しさが持て、リュートのような小音量の楽器でさえ音響機器を使う事無く生音を楽しめる適度の空間。

暖かい木のぬくもりを感じる事の出来る伝統家屋。種々のイベントを企画運営されているここのご主人、奥野さんご夫妻の人柄、姿勢。

ご夫妻を手助けされている方々のお力。

参加されるお客様の観賞姿勢。

これらが相乗的に相俟って「桜の庄兵衛ギャラリー」の魅力を作り上げている様に私には思える。

全てが終わり満ち足りた思いで帰途に着いた。有難う御座いました。

●早間美紀 and friends ジャズライブ お申込み要領 お問い合わせは 06-6852-3270 (奥野) まで

**参加費** ¥2,500  
※当日、会場受付にてお支払いください。

**定員** 90名・全席自由席  
※定員になり次第、締め切りとなりますので、お早めにご予約ください。

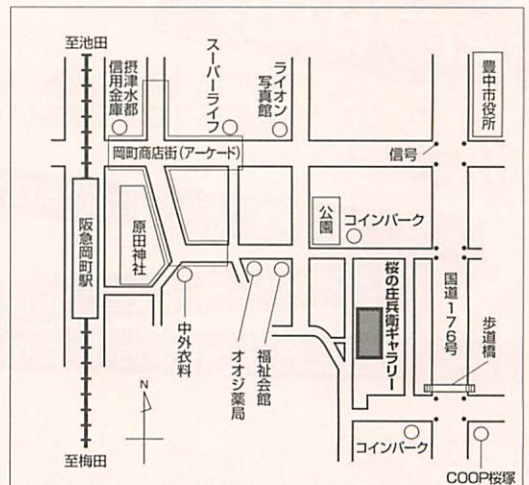
**会場** 桜の庄兵衛ギャラリー  
阪急宝塚線「岡町駅」下車・徒歩約8分

ハガキでのお申込み

※下記内容をご記入のうえ「桜の庄兵衛ギャラリー」までお送りください。

- ご氏名(ふりがな)
- ご住所(郵便番号)
- お電話番号
- ご希望の時間帯 昼の部または夕の部
- ご参加人数(計〇名)
- グループ全員のご氏名(ふりがな)

宛先 〒561-0881 豊中市中桜塚2-30-35  
桜の庄兵衛ギャラリー



Eメールでのお申込み

※ハガキでのお申込と同じ内容を送信ください。

e-mail syoubei@tcct.zaq.ne.jp

TEL・FAXでのお申込み

※FAXでお申込の方は別紙にご記入のうえ送信ください。

TEL・FAX 06-6852-3270